

授業科目	理学療法評価学Ⅲ				
担当者	田坂厚志（実務経験者）、藪中良彦（実務経験者）、岩田篤（実務経験者）、津村宜秀（実務経験者）			（オムニバス）	
実務経験者の概要	田坂厚志（理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり） 藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で20年間、小児訪問リハビリテーションで5年間の実務経験あり） 岩田 篤（理学療法士として、病院などで実務経験あり） 津村宜秀（理学療法士として、病院などで実務経験あり）				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、呼吸循環代謝疾患、小児疾患、中枢神経疾患に関する病態と障害に対する評価法について学びます。

■ 到達目標

1. 代表的な呼吸循環代謝疾患の病態とその評価法について説明することができる。
2. 臨床像と年齢を基に適切な小児期の理学療法評価法を選択できるようになる。
3. 各種神経症状における評価の実施方法を理解し説明することができる。

■ 授業計画

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | 呼吸器理学療法評価Ⅰ
田坂厚志（実務経験者） |
| 第2回 | 呼吸器理学療法評価Ⅱ
田坂厚志（実務経験者） |
| 第3回 | 循環器理学療法評価Ⅰ
田坂厚志（実務経験者） |
| 第4回 | 循環器理学療法評価Ⅱ
田坂厚志（実務経験者） |
| 第5回 | 循環器理学療法評価Ⅲ
田坂厚志（実務経験者） |
| 第6回 | 代謝疾患に対する理学療法評価
田坂厚志（実務経験者） |
| 第7回 | 呼吸循環代謝疾患に対する理学療法評価のまとめ
田坂厚志（実務経験者） |
| 第8回 | 小児期理学療法評価Ⅰ
藪中良彦（実務経験者） |
| 第9回 | 小児期理学療法評価Ⅱ
藪中良彦（実務経験者） |
| 第10回 | 片麻痺患者の評価Ⅰ
岩田篤（実務経験者） |
| 第11回 | 片麻痺患者の評価Ⅱ
岩田篤（実務経験者） |
| 第12回 | 錐体外路障害／運動失調症の評価Ⅰ
岩田篤（実務経験者） |
| 第13回 | 錐体外路障害／運動失調症の評価Ⅱ
岩田篤（実務経験者） |
| 第14回 | 脳神経の評価Ⅰ
津村宜秀（実務経験者） |

第15回 脳神経の評価Ⅱ
津村宜秀（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）80%、小テスト20%で評価する。

学生の心得に記載の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学への出席後速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

適宜提示する課題を確実に学習すること。

提出を求められた場合は確実に提出すること。

■ 教科書

書名：理学療法学テキスト 理学療法評価学Ⅱ

著者名：石川 朗 総編集，森山英樹 責任編集

出版社：中山書店

■ 参考図書

書名：GMFM - 粗大運動能力尺度

著者名：近藤 和泉、福田 道隆、青山 香

出版社：医学書院

書名：Clinics in Developmental Medicine Gross Motor Function Measure (GMFM-66 & GMFM-88) User's Manual 2nd Edition

著者名：Dianne J. Russell、Peter L. Rosenbaum、Lisa M. Avery、Marilyn Wright

出版社：Mac Keith Press

書名：Gross Motor Function Measure (GMFM) Self-Instructional Training CD-ROM

著者名：Mary Lane、Dianne Russell

出版社：Mac Keith Press

書名：PEDI リハビリテーションのための子どもの能力低下評価表

著者名：里宇明元、近藤和泉、間川博之

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：脳性まひ児の24時間姿勢ケア - The Chailey Approach to Postural Management

著者名：今川忠男

出版社：三輪書店

書名：EBOT 時代の評価法 作業療法ジャーナル増刊号 Vol.38. No. 7. 2004

出版社：三輪書店

書名：ベッドサイドの神経の診かた

著者名：田崎 義昭、斎藤 佳雄、坂井 文彦

出版社：南山堂

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ 講義受講にあたって

これまでに学んできた解剖学、運動学、生理学の内容をしっかりと復習して学修を進めること。